岡山県立短期大学紀要　37巻　57〜63頁（1992）

中学校「ダンス」の効果的な学習指導について
― 授業実践例より ―

礒　島　紘　子

I　目　的

教育とは生徒一人ひとりの無限の可能性を伸ばすことを目標として，人格の形成および全人としての調和のとれた発達をめざす営みである。子どもたちは育てられ，生活し，その行動をとりまく社会条件の働きかけを受けながら，自分自身を変革していく。

学校教育での大きな役割は，そうした子でもたちの成長の手助けをすることであり，その学校教育の中心となっているのが授業である。子どもたちはその授業を通して学習したものをかみくだき，そしゃくし，自分のものとして吸収し自己変革をする。こうした教育的営みの体系において，「何のために，どのようにして，いつ」という目的－内容－方法を常に問いかけることは，教師として果たさなければならない大切な使命である。学習目標，学習内容は当然その目的から設定され，そこから具体的かつ適切な指導方法も浮かびあがってくるものである。そして，学習内容を学習者がふさわしく内面化し，学習効果が上がるということは，その学習過程が学習目標に対して最適なものとなることである。

ダンスの学習指導においても，ダンス独自の特性を生かしながら，学習者の内面と身体の発動をめざめさせる学習目標と学習内容が必要となる。そうした視点に立ち，理想的なダンス教育とは，幼児の段階から小学校，中学校，高等学校へと，学ぶべきダンスの学習内容が体系的に明示され，それぞれの段階で学習した経験が系統的に積み重ねられていくことであろうと考える。

そこで本論では，中学校のダンス学習指導において，改訂学習指導要領の重点としているところの「ダンスの楽しさ」に触れる授業展開について論じ，学校教育における系統的なダンス指導を追求する立場から，中学校における授業の実践例を通して，生徒にとって自己実現の喜びを体験できる，ダンスの効果的な学習指導のあり方を提案するものである。

II　ダンス学習における楽しさ

改訂学習指導要領の趣旨は，「生涯学習への態度，能力の育成」，「基礎，基本の内容の重視」，「個性を生かす教育の充実」などであり，生涯にわたって運動に親しむことができるように，運動の技能や方法だけでなく，何よりも運動する楽しさや喜びを理解させることが重要であるとしている。このような体育のねらいを受けて，ダンス領域も生徒の能力や適性を考え，将来のダンス志向へつながるように位置づけられている。従って，ダンス指導の目標も従来のように創作のプロセスを重視する方向から，身体で表現やリズムを楽しむ方向にもウエイトが置かれるようになった。そこで，ダンスの学習指導においては，ダンスのもつ楽しさを体得させ，生涯にわたってダンスを楽しめる基礎となるような，幅広く多様な学習内容を設定することが望まれている。

子どもたちにとって，「楽しいダンス学習」とは，自分自身の創意工夫した動きの中に没入し，身も心も解放されて動き，その中で自己実現の喜びを体験することである。ダンスを学習することによって得られる「楽しさ」とは，学習する過程で学習者のレディネスと学習課題が見合う適切な状態の中で，ダンスのもつ魅力や醍醐味に触れられることと考える。すなわち，ダンスの核となる身体の動きを通して，「踊る」，「つくる」，「みる」を三つの柱とし，個人や集団により身体で表現するおもしろさを経験していくことである。

1．踊る楽しさ

ダンス本来の踊る楽しさとは，人間の身体に内在されるリズム的な感性により，自己を解放し快適な気分と恍惚感に酔う，いわゆる意識の解放といったものであろう。このようなダンスの特色はいろいろなタイプのダンスにも見出すことができる。くり返し反復される踊り，伝承され踊り継がれている決まった型をもつ踊り，ジャズダンス，ディスコダンス，民族舞踊など，踊りの中に自己を没入して，動きのパターンやリズムに酔う楽しさである。

2．つくる楽しさ

自己の内面感情や頭に描いた想像を外界に表出する，

言うなれば「自分の創意を生かす喜び，楽しさ」である。自分自身の内面から湧き起るイメージを，身体を使って外面化していく過程において，さまざまな工夫，独自のアイディアを駆使して作品に仕上げていく行為は，向上の欲求を満足させる楽しさである。

3．みる楽しさ

作者の創意工夫した作品を鑑賞するとき，鑑賞者もまた，自由に創造の世界をもつものである。身体による表現，作品という媒体を通して，作者と共通の感動を得たり，自分自身では気づかなかった新しい美に出会うことにもなる。「みる」ことによって自己を高め変革する楽しさである。

以上，「踊る」，「つくる」，「みる」の三つの立場から，ダンスの楽しさについて論じたが，筆者はその構造を次の２つの面からとらえた。すなわち，一つはダンスそのものの楽しさであり（図Ⅰ），今一つはダンス学習における楽しさ（図２）である。

図１　ダンスの「楽しさ」の構造

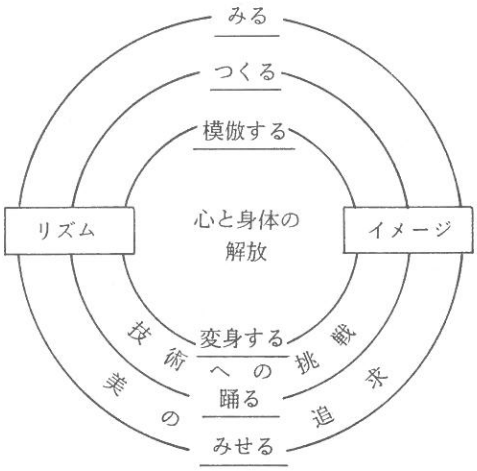
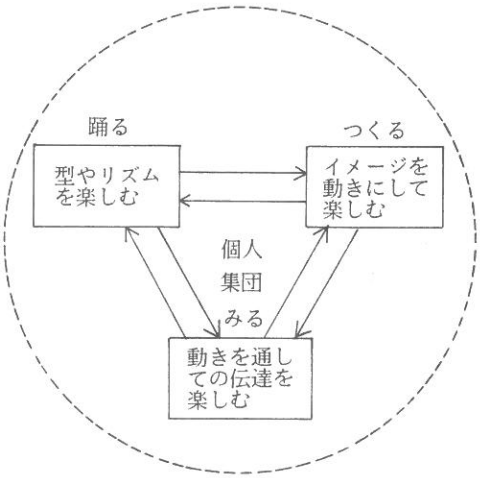


図２　ダンス学習における「楽しさ」の構造



Ⅲ　中学校におけるダンスの学習内容

（学習指導要領を中心にまとめたもの）

青年前期へ入る中学校期は人間の一生を通じて，心身における成長がもっとも著しい時期であり，いわゆる思春期にあたる時期である。自己意識が高揚し，それまでは自分の外の世界に関心が向かっていたのに，しだいに自分自身を意識し，自己の内面を深くみつめるようになる。そのため自分自身に対する他者の態度，批判，評価にきわめて敏感である。

したがって，ダンスの学習指導はそのような発達的特徴をじゅうぶんに踏まえて進めることが大切である。とくに学習への動機づけや導入の方法において，教師の力量と配慮が望まれることになる。何のために（目標），何を（内容），どう（方法）教え，学ばせるかを明確にした上で，授業をつくっていかねばならない。

改訂学習指導要領において，従来と大きく変わったところは，履修の仕方が今までは女子のみの履修であったが，男女共修になったことと，ダンスの内容が創作ダンスとフォークダンスの２本立てになったことである。そして，第１学年では武道，ダンスのうちから一つを選択，第２学年，第３学年においては，球技，武道，ダンスのうちから二つを選択履修することに変わった。従前の学習内容と改訂後の学習内容の比較を次の一欄表にまとめた。（表１）

以上の内容に見るように，改訂後の学習内容は内容的に広がりが見られ，多様な身体表現を導くための具体例が示されており，前指導要領における「……の感じ」の表現という漠然とした示し方より，一歩進んでイメージ⇆動きの変換をスムーズに行ない，身体を使って動きを楽しむことへの取り組みがうかがえる。今回新しく導入された「男女共修」については，男女の特性を生かし動きを構成していく上で，お互いの長所をうまく活用できる方向への取り組みが必要である。

Ⅳ　授業実践の結果と考察

筆者らは幼稚園から高等学校までの表現・ダンス学習における系統的な指導をめざして，学習目標，学習内容を検討し，それに基づいた学習過程，学習指導案を提案している。そして，幼稚園，小学校１学年，３学年，５学年，中学校２学年，高等学校２学年におい

て，実験的に授業実践を試み，すでに指導計画，指導案を中心とした報告書を提出している。

本論では，中学校における実践事例を，教師の指導計画，指導案，および生徒のグループノートから，学習過程における教師と生徒のコミュニケーションの様相，単元終了時の感想などを中心にまとめたものを報告し，その中から問題提起をし，中学校期における効果的なダンス学習の内容について検討する。

1．指導計画

ダンス単元への配当時間……7時間
実施期間……平成元年11月〜12月
実践校……岡山市立福浜中学校第2学年
指導者……岡田節子教諭
課題……「挑戦」よりグループでサブテーマを決め，1分30秒程度の小作品を創作する。

2．指導のねらいと指導のポイント

(1) 課題はイメージが広げやすく，極限まで身体を使うことが予想できることから「挑戦」とした。
(2) 「踊る」「つくる」「みる」活動を毎時間の授業の流れの中に組み入れ，イメージの発展，動きの多様化，互いに助言しあってテーマを堀り下げていく場をつくるようにした。
(3) 恥かしがらずに自分の意見や動きのアイディアが出せる雰囲気をつくるために，導入時のウォーミングアップは楽しい音楽を使って，のびのびと心と身体をほぐすように工夫した。
(4) 1時間，1時間を効率よく主体的に学習活動が進められるように，リーダーミーティングを行い，グループの進行状況を報告させ，他のグループとの交流をはかるようにした。
(5) 生徒一人ひとりが意欲的に創作活動に取り組めるように，グループノートを活用した。（毎時間の計画，反省，感想を記録させ，教師が助言指導をして返す。）

3．授業の進め方と指導案（表2）

4．教師⇄生徒のコミュニケーション過程

毎時間のグループ毎の計画に沿った作品づくりを通して，生徒一人ひとりの反省，感想，グループとしての反省，感想をグループノートに記録し，教師がグループ毎に把握して助言指導していく過程を，2年C組2班を事例として図3に示す。

表1　中学校「ダンス」領域の学習内容（学習指導書より）

前学習指導要領の内容	改訂学習指導要領の内容
創作ダンス 初步的な段階 「楽しく軽やかで滑らかな感じの表現」 この感じをもつイメージを，自然，生活事象，生活感情などの広い範囲からとらえ，動きやすい題材を見つけて表現する。 題材例……若鮎，祭，水上の乱舞，春の幻想，風に舞うなど。 個人，集団，対応した動きなどに応じ場所の使い方を工夫する。 進んだ段階 「激しく対立する感じの表現」 題材例……自然の怒り，プラスとマイナス，接戦，対決など。 2人の対応や，群と群との対応，個と群との対応など内容に応じて人や場所の使い方を工夫する。 さらに進んだ段階 「力強くまとまって活動する感じの表現」 題材例……大地，建設，スポーツ，働く力，海流，繁殖など。 集団が密集したり分散したり集合するなど，内容を強調するように集団や場所の使い方を工夫する。	(1)創作ダンス ア．いろいろなテーマによる表現 （例）①身近な日常動作を手掛りにした表現 ②音楽のリズムを手掛りにした表現 ③多様な感じの題材や音楽を手掛りにした表現 ④力の起伏のある題材や音楽を手掛りにした表現 ⑤対極の動きの連続を手掛りにした表現 ⑥楽器やもの（小道具）を手掛りにした表現 ⑦群（集団）の動きを手掛りにした表現 イ．簡単な作品の創作 取り組んでみたいテーマを選び，そのテーマにふさわしい個と集団の動き方，場所の使い方，はこびを工夫して個性を十分に生かした作品を創作する。 作品創作の手順 (ア)テーマの選択 (イ)表現の中心と作品全体の見通し (ウ)動きの工夫 (エ)集団と場所やはこびの工夫 (オ)踊り込みと仕上げ (カ)発表，鑑賞 (2)フォークダンス ア．日本民踊 イ．外国民踊

表2　授業の進め方と指導案（中学2年課題「挑戦」）

時	本時の目標	学　習　活　動	指導上の留意点
第1時	1．ダンスについての知識を深める（ダンスの種類，特性について） 2．音楽を刺激にしてイメージをふくらませ，短かいフレーズをつくって動く。	1．ダンスの種類，特性についての説明を聞く。 2．これからのダンスの授業の流れを知る。 3．ウォーミング・アップ 4．グルーピングをする。 5．音楽を聞き，そのイメージから，グループで16呼間程度の動きをつくる。 6．グループノートにつくつった動きを記録しておく。 7．本時のまとめ，次時の予告。	1．表現の楽しさ，人に身体で表現し伝えることの喜び，難しさ，心を伝える手段としてのダンスであることを興味を持たせるように説明する。 2.心と身体をしっかりほぐすように。 3．体育委員を中心に皆から意見を言わせグループ構成をする。リーダーも決めさせる。 4．音楽からのイメージを話し合わせ動きに移させる。 5.リーダーを中心にグループノートに本時に決まったことを要約し記録させる。
第2時	1．集団の動きについて理解する。 2．群の動きを組み合わせ取り入れ，16呼間の動きをつくる。	1．本時の目標の確認 2．ウォーミングアップ 3．集団（群）の動きについての説明をきく。 4．リーダーミーティング 5．群の動き方の工夫をして16呼間程度の動きをつくる。 6．グループごとに発表。 7．教師からの感想をきく。 8．グループ，個人での反省，記録をする。 9．次時の予告。	1．グループでの創作練習時間，活動の場所を確認させる。 2．力強い動き，鋭い動きを内容に入れて動かせる。 3．ユニゾン，カノン，コントラスト，強調，集離，塊，点在，線，円など群の構成の仕方を説明する。 4．リーダーの自覚を持たせる。発表の順を決めさせる。 5．話し合いばかりにならぬよう動きながらつくるようにさせる。 6．群の動きに工夫があるか他のグループを参考にさせる。 7．思ったことを素直に感想にあらわすように指示する。
第3時	1．音楽，テーマに合った作品づくりに入る。 2．グループでの話し合いを活発にし，協力しあってつくっていく。	1．本時の目標の確認。 2．ウォーミングアップ 3．リーダーミーティング 4．グループで作品づくりに入る。 5．できたところまで発表する。 6．教師からの感想をきく。 7．グループ・個人での反省，記録をする。 8．次時の予告。	1．グループでの創作・練習時間の確認をさせる。 音楽（松田昌作“打”）テーマ“挑戦”よりとらえられる内容をグループでしっかり話し合わせる。 2．移動を加えたなめらかな動きを内容に入れる。 3．リーダーに創作のポイントを知らせる。 ・呼間にこだわらなくてよい。 ・音楽に動きを合わせてしまわなくてもよい。 4．正面，場所の広さを指示する。 みるポイントを知らせる。 ・思い切りの良い動きができているか。 ・踊りを覚えているか。 ・場・群をうまく活用しているか。 5．良い点を中心にほめ，完成への意欲をもたせるように。 6．でき上った踊りをよく判るように（絵，ポイント）記録させる。
第4時	1．課題「挑戦」より，グループのサブテーマを決める。 2．グループで協力し，個性あふれる作品に創りあげる。	1．本時の目標の確認 2．ウォーミングアップ 3．リーダーミーティング 4．作品づくり（全体の見通しを立て大筋をつくってしまう。 5．発表する。 6．教師の感想をきく。 7．反省・記録 8．次時の予告。	1．自分たちの表わしたい内容からサブテーマを探っていくことを知らせる。 最後まで一通り踊りを完成させることを目標にさせる。 2．指先，足先，顔，視線などによって美しさに変化があることを知らせる。 3．発表の順を決めさせる。 4．踊りが終っても音楽が終るまで最後のポーズをして待つことを指示する。 5．本時の目標に合っているかどうかをポイントに話す。 発表までの時間を知らせる。 6．次時は細かい部分にも気を使いながら作品に味つけをし，良い作品にするように意欲をもたせる。

第5時	1．作品全体を見通して飾り，味つけをしていき，作品を仕上げる。 2．自分たちが表わしたいことを大切にし，その部分を盛り上げていく工夫をする。	1．本時の目標の確認 2．リーダーミーティング 3．作品づくり 4．発表する。 5．教師からの感想をきく。 6．反省，記録。 7．次時の予告	1．でき上った動きを手直しして，飾りや味つけをして，作品を完成させようと意欲を出させる。 ・発表会では皆の努力の成果をビデオどりすること ・学年女子全体で鑑賞することを知らせる。 2．群，方向，場，視線など動きの工夫をしっかりしていき，次時には踊りこみができるよう完成させるよう目標をもたせる。 3．グループごとにまわっていき，それぞれのグループの良さを評価する。 ・工夫できるところを指摘し，もっと良くしようと盛り上げる。 ・人の心をゆさぶるような作品をつくろうと呼びかける。 4．踊りこみによってその作品が生き生きしてくることを示しておく。
第6時	1．場の使い方や身体を十分に使うよう注意して踊りこむ。 2．皆で気持を一つにし，心をこめて踊る。	1．本時の目標の確認 2．リーダーミーティング 3．踊りこむ 4．発表の仕方についての説明をきく。 5．反省，記録 6．次時の予告	1．踊りこみによって，ぐっと作品がひき立つことを知らせる。 2．皆が気持を一つにして踊る大切さを知らせる。 3．・場の使い方 ・身体の方向 ・指先，足先 ・視線 ・表情など細かい部分にも注意をはらうように ・はじめと終りの形を大切にするように 4．サブテーマをグループごとに黒板に書いておくことを指示。 5．次時の発表会では，思いきり踊るように励ます。
第7時	1．自分たちのつくった作品を堂々と踊りきる。 2．他グループの作品を鑑賞し，評価する。	1．本時の目標，時間配分の説明をきく。 2．総仕上げの練習をする。 3．発表をする。 4．反省，感想，ダンスの授業についての感想を記録する。 5．教師よりの発表への感想，授業のまとめをきく。	1．15分間練習時間にあて，能率よく使うよう指示する。 他グループの作品をよくみて良さを感じとることを示す。 思い残すことなく，思いきり，踊るように 3．移動をはやくすることを指示する。 みる態度に気をつけさせる。 4．自グループの反省，感想をさせる。 ・今日の発表について ・ダンスの授業を終えて 他グループの評価をさせる。

指導教諭（岡山市立福浜中学校　岡田節子）

この図からも判るように，教師は助言の内容を次の3点から示している。

(1) 投げかける（ヒントになることを示す。）

(2) ひきだす（生徒自身のやりたいことをみつけ，可能性をひきだす。）

(3) 励ます（意欲的に取り組むように元気づける。）

そして，これら3方向の助言により，グループでの意欲を高めていく効果をあげている。授業時間内にグループ間を巡回して指導していく間に，個々のグループの活動状況を把握しておいて，グループノートを介してそれぞれのグループに見合った適切な助言をすることが，非常に有効に働らいている一つの例である。

5．授業後の感想

ダンス単元終了時に生徒に自由記述で感想を書いてもらい，それをまとめたものが表3である。

生徒がダンス学習を終えて，「楽しかった。」と感じたことは，表3からも判るように，「皆で協力して考えた。」，「グループがよくまとまっていた。」など，仲間と協力して一つのものをつくりあげ，踊った喜びを多くあげている。また，単元の最初にはダンスに対する近寄りがたさを意識していた生徒も，作品をつくっていくうちに，グループで踊ったり，力を合わせて形あるものにまとめていく成就感を味わったり，他のグループの作品をみて，色々な表現方法を知ったりすることによって，ダンスに対する認識がかわり，次への意欲が湧いてきている。これはこの授業を通して，ダンスのねらいとする「踊る，つくる，みる」の三つの

図３　創作過程における教師⇄生徒のコミュニケーション（２年Ｃ組２班）

第１時 生徒の活動と反省

グループ内での話し合い
- 意見が沢山出て一つにしぼれなかった。
- 色々な意見が出てなかなか決まらなかった。
- むだな話もあった。次回からは能率よく進めたい。

教師の助言

しっかり意見を出し合って，皆で一つのものを見つけていきましょう。

第２時

グループでの計画
- バスケットボールの対戦の様子をすることに決定
- 全体の配置，大まかな動きを決める。

この時間の反省
- 皆の協力のかいがあって前進した。
- 多くのアイディアが出た。
- 記し合いがよくまとまってやる気が起ってきた。

教師

とてもユニークで発展性のあるテーマと動きですね。
反省，感想もしっかり書いてあるし，取り組み方がすばらしい。

第３時中間発表

- 隊型の変化に工夫を加えた。マンツーマンディフェンスの様子を工夫する。
- くり返しを何回かして感じを強める。

- とても楽しく話し合いができた。今度は音楽に合わせよう。
- かなり進んだが話し合いに加わらない人がいるので協力しよう。
- 積極的に良い意見が出た。

教師

- 動きに工夫があってすばらしい
- せっかく出てきた動きを大事にしたいね。その動きを少し変えたら良い動きになるかなあ…
- 場所の移動をしっかりしましょう。

第４時

- 動きに盛り上がりや変化をつける工夫をする。
（前転・ジャンプなど多く）

- 今日はよく意見がまとまって能率よく進んだ。あと少しなので頑張ろう。
- 動きが難かしくなってきたのでよく練習して他の班に負けないように頑張ろう。
- 皆一生けん命協力している。完成まであと少し，良いアイディアでしめくくろう。

教師

あとは最後のまとめをどうするかですね。
工夫された動きがたくさんあって感心します。
今までの苦労をしっかり作品で見せて下さい。

第５時

- 音楽と動きが合うように細かい打ち合わせをする
- 身体をしっかり使って大きく動くようにする

- 場所をいっぱい使えるようになったので，この調子で頑張りたい。
- 自分達の納得のいく動きを作ることができてうれしい。
- 音楽と動きが合わないところがある。

教師

頑張っていますね。
すばらしい作品になるようにしっかり踊りこもう。

第６時

- 一通りできあがったので場所の使い方や動きなど細かい部分をなおしていく。

- 大体最後までまとまった。発表までしっかりそろえよう。
- 細かい部分の注意が山ほどあるけど心を合わせて頑張ろう。
- 発表にのぞんで心残りのないように頑張るぞ！

教師

楽しい雰囲気で進んできて良かったね。
グループの人の協力があったので自信をもって発表しよう。
みんなに感動してもらえるような作品を期待していますよ。

第７時発表

- まじめに一生けん命やった成果を出しきろうと思う。

- 最後まで色々な案が出て１時間１時間楽しく出来た。
- 声を合わせて思いっきり頑張った。
- 最後の方をあわてて変えたので心配だったけどうまくできた。

教師

作品に変化があってとても良かった。
今日の発表を忘れずに今度はもう少し長い作品にしたらいいと思います。

授業後の感想

- 皆で楽しく話し合いができて良かった。また今度も工夫してやりたい。
- 自分たちなりに一生けん命やったので満足。
- 最初はダンスなんてと思ったけど結構おもしろかった。

表3　ダンス授業（単元終了時）についての感想
（2年C組）

皆で協力して考えて楽しかった。	6
一生けん命に取り組めて良かった。	4
最初はダンスなんてと思ったけどやってみるとおもしろくなった。	3
最初は恥かしかったけどだんだん恥かしくなくなった。	2
グループがようまとまっていたので楽しかった。	2
楽しかったので今度はもっと違った工夫がしてみたい。	2
皆でどんどん意見を出しあえて良かった。	1
ダンスは苦手だけど終ってみると楽しかった。	1
短かい作品でもこんなに色々工夫できるなあと思った。	1
最初はあまり真剣でなかっさが，途中からやる気になった。	1
最初は「嫌だなあ」と思ったけど終ってみると結構楽しかった。	1
創作するっておもしろいものだなあと思った。	1
良い案が出なくて大変だったけど楽しかった。	1
今度は違うテーマでやりたい。	1

流れがうまく活用されて，生徒の学習活動に無理なく組み入れられていった結果であろうと考えられる。

V　まとめ

系統的な学習指導をめざして，発達段階に見合った学習内容を設定することを目的とし，中学校における授業実践の結果を報告した。それらのことから，若干の問題点や次の方向性など次のようにまとめられる。

1．指導計画，指導内容について

(1)　ダンスの配当時間が7時間という少ない配当であったため，導入の段階で作品づくりの練習（群構成の仕方，作品構成の仕方など）に十分時間が取れなかった。

(2)　中間頃に自分たちの動きをＶＴＲに撮り，テーマに照らして客観的に確かめてみる機会をつくる必要があった。

(3)　グループ活動に入る前に作品づくりのポイントを確認する方がよい。（表現の中核を常に考えながら進める。はじめ，なか，終りを明確にするなど）

2．授業過程，授業後の感想について

(1)　グループノートを通して，教師と生徒のコミュニケーションがスムーズにいき，それが作品づくりやグループの意欲を盛り上げる上で，効果をあげていた。

(2)　毎時間リーダーミーティングを行ない，他グループの進行状況や毎時の目標を確認し合って，グループ活動に入ることは主体的に学習を進める上で有効である。

(3)　生徒にとって楽しく満足感の得られる学習とは，グループ活動が活発で一人ひとりの意見が作品の中に反映され，自分たちが創り上げたことが実感できるところにある。

これらのことから，ダンス学習にとって，効果的な指導とはまず，子どもたちの興味，関心，意欲を拡充する方向へ導きながら，身体で表現することの面白さ，さらに独創性へのチャレンジなど，「楽しみながら学習を進める」ことである。今後はそうした「ダンスの楽しさ」をさらに追求し，その深まりを考えたい。終りに授業実践にご協力いただいた岡田節子教諭（現在，岡山市丸の内中学校）に謝意を表する。

参　考　文　献

1．西谷，荒木，礒島，井上，藤原共著「表現・ダンス学習指導の体系化をめざして」　遊戯社　1986　P10〜23
2．荒木，礒島，井上「（文部省学習指導要領にもとづく）表現・ダンスの学習指導について」研究報告　1991　P65〜77
3．「中学校指導書　保健体育編」文部省　1989　P50〜52
4．京口和雄著「体育科の主体的学習」明治図書　1969
5．「体育科教育」大修館書店　1989　9月号　P33〜35
6．「女子体育」日本女子体育連盟　第33巻　第6号　P4〜7
7．大渕，石田編著「学習指導の心理学」　ぎょうせい　1991

平成4年5月29日　受付
平成4年6月11日　受理